

2018年（平成30年） 5月18日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <http://oil-info.ieej.or.jp>

■ 概況

4/26~5/9のNYMEX・WTIは、67.25~71.14ドルの範囲で堅調に推移した。

5月10日は、利益確定売りが先行したものの、8日のトランプ大統領の米国のイラン核合意離脱・対イラン制裁再開の発表による緊張の高まり、イスラエルによるシリアのイラン軍基地攻撃の報道、対ユーロでのドル安進行による原油先物の割安感等から、反発した。6月限の終値は前日比0.22ドル高の71.36ドルだった。

週末11日は、ペーカーヒューズ社の米国内石油掘削リグ稼働数が844基（前週比10基増）と6週連続で増加、9日発表のEIA週報で米国内産油量が1070万b/dと史上最高を記録するなど、米国の供給過剰感に加え、高値による利益確定売りもあり、反落した。6月限の終値は前日比0.66ドル安の70.70ドルだった。

週明け14日は、同日発表のOPEC月報で4月産油量は3193万b/dとほぼ横ばいだったが、ロイター通信が昨年からの協調減産で世界的供給過剰は解消されたとのOPECの見解を伝えたことから、反発した。6月限の終値は前週末比0.26ドル高の70.96ドルだった。

15日は、イランからの供給懸念に加え、同日夕刻と明日の米国官民の在庫週報で取り崩しが予想されることから、続伸した。ただ、為替市場のドル高や前日のEIA報告で6月の米国のシェールオイル生産が718万b/dと史上最高になったことなどが上値を抑えた。6月限の終値は前日比0.35ドル高の71.31ドルだった。

16日は、米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油・製品ともに取り崩しとなったことから、米国の供給過剰

懸念が後退、3営業日続伸した。6月限の終値は0.18ドル高の71.49ドルだった。

アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(5月渡し)は、前々週・前週70.30~73.40ドルの範囲で推移した。5月10日74.70ドル、11日74.30ドル、14日73.80ドル、15日75.00ドル、16日75.10ドルで推移した。

為替は、前々週・前週108.91~109.90円の範囲で推移した。5月10日109.96円、11日109.49円、14日109.31円、15日109.74円、16日110.33円で推移した。

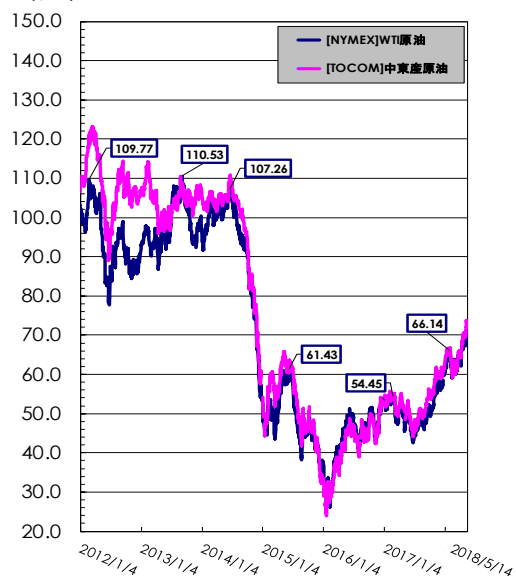
主要元売会社の5月第4週に適用する卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値上げとなった。

原油価格は値上がりし、為替レートも円安で、原油調達コストは値上がりした。

そのような中で、5月14日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.2円の値上がり、軽油も同1.2円の値上がり、灯油は同14円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリンは4週連続の値上がり、軽油も4週連続の値上がり、灯油も4週連続の値上がり(18%ベース)だった。この週(5月第3週)の原油コストは値上がりし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5円と2.0円の値上げに分かれた。

原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	5/6 ~ 5/12	3,285 ▼ -130	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.9 ▼ -3.3	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	5/12	13,171 ▲ 49	▲ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	5/14	72.91 ▲ 0.77	▲ 22.3
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	5/14	70.96 ▲ 0.23	▲ 22.1
	原油CIF単価 (\$/bbl)	4月中旬	66.04 ▲ 0.03	▲ 12.13
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,139 ▲ 256	▲ 6,522
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	106.25 ▼ -0.57	▲ 4.69
	外国為替TTSレート (¥/\$)	5/14	110.31 ▼ -0.36	▲ 4.12

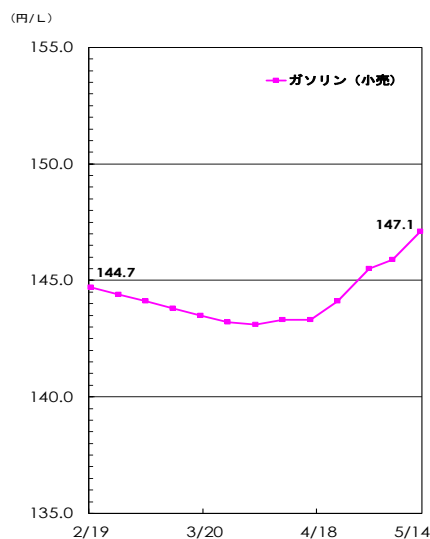
(\$/b)



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/6 ~ 5/12	1,027 ▲ 10	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	902 ▼ -54	➡ -	
	輸出	"	67 ▼ -51	▲ -	
	在庫	5/12	1,719 ▲ 58	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/8 ~ 5/14	65.9 ▲ 1.7	▲ 17.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/8 ~ 5/14	65.2 ▲ 1.7	▲ 16.4
		(TOCOM/中部)	5/14	65.7 ▲ 1.7	▲ 17.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/14	147.1 ▲ 1.2	▲ 14.4	

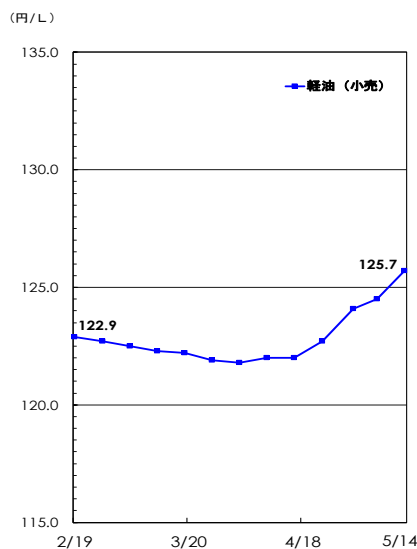
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

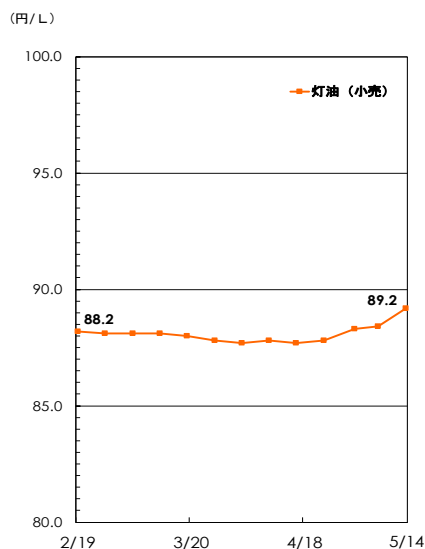
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/6 ~ 5/12	697 ▼ -67	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	594 ▲ 157	▲ -	
	輸出	"	74 ▼ -161	▼ -	
	在庫	5/12	1,555 ▲ 28	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/8 ~ 5/14	66.4 ▲ 1.4	▲ 17.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/8 ~ 5/14	65.8 ▲ 1.5	▲ 17.8
		(TOCOM/中部)	5/14	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/14	125.7 ▲ 1.2	▲ 14.2	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	5/6 ~ 5/12	169 ▼ -11	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	147 ▲ 54	▲ -	
	輸出	"	0 ➡ 0	➡ -	
	在庫	5/12	1,483 ▲ 22	▲ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	5/8 ~ 5/14	65.8 ▲ 1.3	▲ 18.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	5/8 ~ 5/14	65.9 ▲ 1.5	▲ 20.2
		(TOCOM/中部)	5/14	66.1 ▲ 2.4	▲ 19.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	5/14	89.2 ▲ 0.8	▲ 11.9	



■ 関連情報

1 海外/原油

5月16日のNYMEX市場WTI原油は、午前発表の米エネルギー情報局(EIA)の米国在庫週報で、原油在庫が前週比140万バレル減、ガソリンが同380万バレル減、中間留分が70万バレル減といずれも取り崩しとなったことから、3営業日続伸した。ただ、為替市場のドル高やこの日のIEA石油市場月報の2018年世界需要の10万b/dの下方修正が上値を抑えた。6月限の終値は前日比0.18ドル高の71.49ドル、7月限の終値は前日比0.19ドル高の71.56ドルだった。

EIAによると、5月14日時点のガソリンの小売価格は、前週比2.8セント値上がりの1ガロン2.873ドル(83.6円/ℓ)となった。ディーゼルは前週比6.8セント値上がりの3.239ドル

(94.3円/ℓ)。ガソリンは2週振りの値上がり、ディーゼルは8週連続の値上がり。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、平成30年5月6日～05月12日に休止したトッパー能力は41.0万バレル/日で、前週に対して7.3万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は328.5万klと、前週に比べ13.0万kl減少。前年に対しては10.6万klの減少。トッパー稼働率は83.9%と前週に対して3.3ポイントの減少、前年に対しては2.7ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてガソリン、A重油が増産となり、その他の油種で減産となった。ガソリン/1.0%増、ジェット/24.4%減、灯油/5.9%減、軽油/8.8%減、A重油/27.3%増、C重油/19.9%減。今週のC重油の輸入は6.8万kl(前週比0.7万kl増)。軽油の輸出は7.4万kl(前週比16.1万kl減)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリンが減少となり、その他の油種で増加となった。前年比では灯油と軽油が増加となり、ガソリンが横ばい、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は90.2万kl(対前週5.6%減)と前週比で3週振りに減少となり、7週連続で100万klを下回った。ジェット8.6万kl(対前週70.4%増)、灯油14.7万kl

(対前週58.0%増)、軽油59.4万kl(対前週35.8%増)、A重油20.3万kl(対前週105.5%増)、C重油16.7万kl(対前週46.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (5/6 ~ 5/12)	前週 (4/29 ~ 5/5)	前週比
ガソリン	902	956	▼ -54 (-6%)
ジェット燃料	86	51	▲ 35 (69%)
灯油	147	93	▲ 54 (58%)
軽油	594	437	▲ 157 (36%)
A重油	203	99	▲ 104 (105%)
C重油	167	114	▲ 53 (46%)
合計	2,099	1,750	▲ 349 (20%)

※今週出荷量=(前週末在庫+今週生産+今週輸入)-(今週輸出+今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

5月12日時点の在庫は、ジェットとA重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、ジェットと灯油が積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。

ガソリンは171.9万kl、前週差5.8万kl増。前年に対しては12.2万kl少ない。

灯油は148.3万kl、前週差2.2万kl増。前年に対しては29.9万kl多い。

軽油は155.5万kl、前週差2.8万kl増。前年に対しては11.9万kl少ない。

A重油は77.9万kl、前週差1.0万kl減。前年に対しては4.3万kl少ない。

C重油は203.5万kl、前週差2.3万kl増。前年に対しては4.6万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (5/12)	前週 (5/5)	前週比
ガソリン	1,719	1,661	▲ 58 (3%)
ジェット燃料	1,124	1,133	▼ -9 (-1%)
灯油	1,483	1,461	▲ 22 (2%)
軽油	1,555	1,527	▲ 28 (2%)
A重油	779	789	▼ -10 (-1%)
C重油	2,035	2,012	▲ 23 (1%)
合計	8,695	8,583	▲ 112 (1.3%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

5月8日から5月14日の原油価格は、前週対比で大きく値上がりし、為替レートはほぼ横ばいだったが、原油コストは値上がりしたと見られる。

陸上スポット価格は、5月8日から5月14日までの間、ガソリン118～120円台で値上がり、軽油65～66円台で値上がり後横ばい、灯油64～66円台で値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン120～122円台で大きく値上がり、軽油66～68円台で大きく値上がり、灯油

65～66円台で値上がり後やや値下がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン117～119円台で大きく値上がり後わずかに値下がり、軽油65～66円台で値上がり、灯油64～66円台で値上がり後やや値下がりして推移した。

元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに全社2.0円の値上げとなった。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

製品スポット市況は、海上・陸上・先物の取引で1円以上の大きな値上がりとなった。

5月第4週(5月17～5月23日)適用の元売卸売価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(5月8日～5月14日千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、ガソリンは1.7円の値上がり、灯油は1.3円の値上がり、軽油は1.4円の値上がりだった。東京湾渡しの海上スポット平均価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.4円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。先物価格は、ガソリンが1.7円の値上がり、灯油は1.5円の値上がり、軽油は1.5円の値上がりだった。原油価格は値上がりし、為替はほぼ横ばいだったが、原油コストは値上がりした。

5月第4週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社2.0円の値上げとなった。なお、元売会社は、2010年から卸売価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (5/8 ~ 5/14)	前週 (5/1 ~ 5/7)	前週比
レギュラー	65.9	64.2	▲ 1.7
灯油	65.8	64.5	▲ 1.3
軽油	66.4	65.0	▲ 1.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値][平均]	今週 (5/8 ~ 5/14)	前週 (5/1 ~ 5/7)	前週比
レギュラー	65.2	63.5	▲ 1.7
灯油	65.9	64.4	▲ 1.5
軽油	65.8	64.3	▲ 1.5

※上記価格は税抜き価格

参考値 (5/8～5/14実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲ 1.7	▲ 1.7	▲ 1.7
灯油	▲ 1.3	▲ 1.5	▲ 1.4
軽油	▲ 1.4	▲ 1.5	▲ 1.4
A重油	▲ 1.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

5月14日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.2円高の147.1円、軽油は同1.2円高の125.7円、灯油は同0.8円高の89.2円(18%ベースでは同14円高の1606円)だった。ガソリン・軽油・灯油ともに、は4週連続の値上がりだった。都道府県別に、ガソリンの値上がりは45都道府県、横ばいはなし、値下がりは2府県だった。全国最安値は徳島県の139.6円(同0.8円高)、次が埼玉県143.0円(同1.4円高)、最高値は長崎県の154.4円(同0.6円高)だった。最も値上がりしたのは、2.9円高の群馬県(148.5円)だった。最も値下がりしたのは、0.4円安の大阪府(146.5円)だった。

先週の原油コストは値上りし、元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、1.5円と2.0円の値上げに分かれた。4週連

続でガソリン小売価格は値下がりした。今週の原油価格は値上がりし、為替レートはほぼ横ばいだったが、原油コストは値上がりした。次週(5月21日)のガソリンの小売価格は値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (5/14)	前週 (5/7)	前週比	直近高値
レギュラー	147.1	145.9	▲ 1.2	08/8/4 185.1
灯油	89.2	88.4	▲ 0.8	08/8/11 132.1
軽油	125.7	124.5	▲ 1.2	08/8/4 167.4

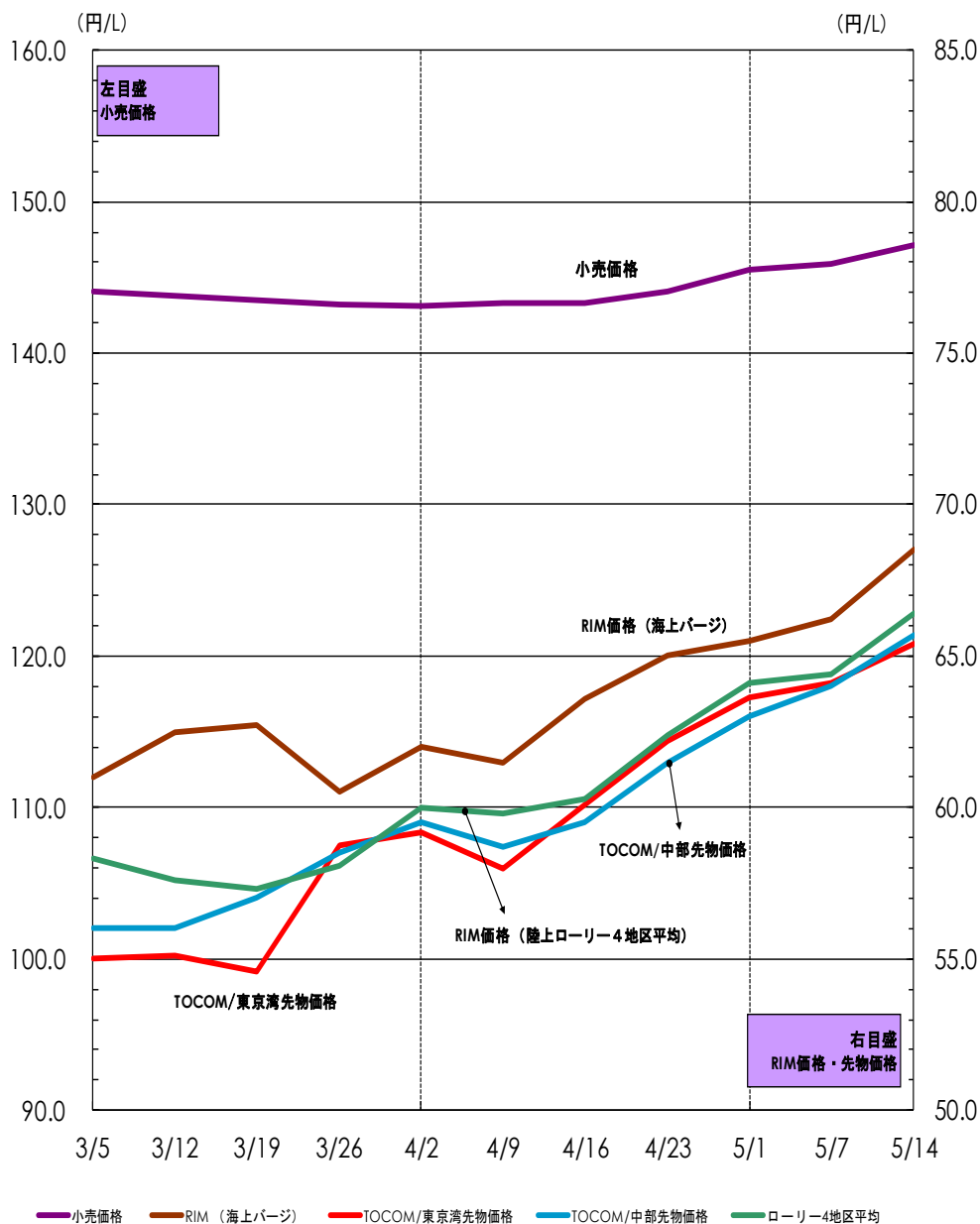
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2018/3/5 ~ 2018/5/14)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<http://oil-info.iecej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2018第7号)の公表は、5/25(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成29年9月末現在)は、12月13日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値)を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の東京、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における現金一般価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁-HPIに掲載)。